

看護部だより

ひまわり

2010年7月
発行責任者：山口圭子

Vol.7



親睦会報告

看護部カトレア会

6月28日(月)18時半から看護部カトレア会主催による恒例の「親睦会」を実施しました。参加者は総勢103名と、昨年に比べ参加者も多く、それなりに盛り上がったと思います。今年度も新人職員の方々と早い時期に交流をはかり、親睦を深めようと梅雨時期の開催となりました。昨年バーベキューは皆様から大変好評だったため、今年度は“日輪の郷”を貸し切り、焼き肉食べ放題を企画しました。また、今年はカトレア会メンバーが考えた自己紹介、ゲームなども行いました。各部署のテーブルから笑い声や笑顔が見られ、皆さん方に楽しんでいただけたのかなと思い、ほっとしています。しかし、野菜がほとんどなかった、肉が少し固めであった、部屋が蒸し暑かったなど、終了後いろいろな意見も聞かせていただきました。来年は今年の反省を元に皆さんに今年以上に満足していただけるような企画を考えていきたいと思っています。



カトレア会の活動は看護部の皆様の会費から成り立っているものです。看護部総会・親睦会にはたくさんの方に参加していただきたいです。これからもカトレア会の活動への協力・ご支援よろしくお願いします。(松元)

「感動看護」を伝えよう！－看護の日20周年記念－

今年、日本看護協会は看護の日制定20周年記念として“感動看護エピソード”を募集しています。全国から1,603通の応募があり、最優秀賞など20作品が選出されています。

今回は最優秀賞作品を紹介しますが、優秀賞3作品は日本看護協会ホームページに掲載されていますので、ご覧ください。皆さんにも、忘れられない患者さんとのエピソードが数多くあるのではないかでしょうか。看護部だより“ひまわり”にエピソードを是非お寄せ下さい！



最優秀賞

「感動のスキップ」 山口 義美

「やめようと思ったことないですか？」。後輩に聞かれると、必ず話すエピソードがあります。その子との出会いは、私が救命センターで研修していた3年目でした。「6歳男児、意識レベル清明。交通外傷右足に挫滅創」。右下肢切断を余儀なくされました。

手術前日、消灯後も布団にくるまりずっと泣いていたその子の頭を、私は時間の許すまで撫でてあげることしかできませんでした。手術後は小児科へ転棟したこともあり、その子が片足になることをどう受け止めて、どう過ごしたかを私は知ることもなく、救命センターの業務に没頭する日々が続きました。

それから2ヶ月ほど経った頃です。20メートルくらいの一直線の廊下に、小児科の看護師と手をつないで立っている男の子の姿が目に入りました。「どうしたの」と私は思わず声を掛けました。他に義足のこと、リハビリのこと、聞きたいこ

とはたくさんありました。

「見て」。男の子は右足の長ズボンの裾をめくり上げると、紫のメタリックの輝いた義足が映りました。誇らしげに、私に「かっこいいでしょ」と言いました。「仮面ライダーみたいだ、強そうだね」と返します。

「ねえ、もう一つ見せたいものがあるんでしょう？」と小児科の看護師が促すと、「え～。まだうまくできないけど……笑わないでね」と照れくさそうにうつむきます。と同時に私の目に入ってきたのは、右足の義足をガチャガチャと音を立てながら、それでも前に足を運んで行く、不器用な、本当に不器用で感動的なスキップでした。「やっぱ、まだうまくできないや」と照れ笑いするその子に「おまえ……すごいよ！」私たちは涙が止まりませんでした。その子への思いを通じて、病棟を超えて感動を分かち合えたことが、私の看護の仕事に対する不全感をすべて洗い流してくれた……。

これからも伝えます。「そんな仲間と、一生を左右する患者との出会いがある職業を、面白くてやめられるわけないじゃないか」と。

教育委員会 研修レポート



STARTING

6/5(土),6(日)

新人看護師一泊研修 in 宮之城観音滝公園

6月5日～6日、恒例の新人1泊研修にいってきました。今回は新人11名、プリセプター7名、教育担当主任2名、師長4名で参加しました。

初日は、自己紹介型グループワークをはじめ、お互いを知ることから始まり、事例検討やウォークラリーといったチーム活動を通して研修をしました。事例検討では、患者・家族の思いについて考え、少ない情報の中でしたが、皆あらゆる方向からの気づきを自分の意見として発言し、お互いが考えさせられる内容になりました。その後のウォークラリーでは、暑い中へトヘトになりましたが、制限時間いっぱい使ってカード探し、答え合わせを行なっていました。(タイタンノタタカイ…知らないって?)

夕食作りでは、飯田隊長のもと、大きなお釜でご飯を炊き、カレー、サラダを作りました。じゃがいもまるごとゆでてたのには、皆びっくりしましたが…。無事出来上がりましたよ。夜の座談会ではお互いの意見や体験談がきけて、これから励みやがんばりにつながったようでした。

2日間を通して、プリセプターが企画、準備したグループワークも一生懸命とりくみ、新人だけでなく、プリセプターにとっても、いろいろな学びができた研修になりました。研修での学びを日々の業務の中で活かしていくよう頑張りましょう。(田口)

ウォークラリー



夕ばっかりだ。何だろ？？？



夕食づくり



K'ガ"ななかつかないよ~ょ



座談会



完成！

そば打ち体験



できあがり

グループワーク



WALKING

フィジカルアセスメント・看護過程 6/3(木) 講師:古瀬副主任

Physical (肉体的な・身体的な)
Assessment (査定・事前影響評価)



フィジカルアセスメントについては、日頃の情報収集の方法やその内容、バイタルサインの測定部位や測定するまでの注意事項などの講義の後に模擬症例をもとに、グループワークにて看護過程の展開を行いました。グループ毎に積極的に意見交換し、不足している情報については追加して情報収集を行い、個別性が反映された看護過程の展開ができていたように思います。当院入職2年目として、初心の気持ちを忘れることなく、今後も個別性をふんだんに看護過程の展開ができるようにがんばっていってほしいと思います。この1年間の成長を感じられた研修でした。(西野)

RUNNING コーチング 5/20(水) 講師:松元主任

コーチングの基本についての講義があり、「あ行トーク」や「G R O W モデルに沿ったコーチング」についてのグループワークを行い、傾聴・質問のスキルの実際について学びました。グループワークを通して相手を理解しようとする大切さや相手の思いを引き出して答えを導き出すことの難しさについて学ぶことができました。

今年度プリセプターをしているメンバーがほとんどであり、普段のプリセプティーとの関わりを振り返り、今後の指導の在り方について学ぶ良い機会になったのではないかと思います。(木村)

STEP クリティーク 6/30(水) 講師:渡邊理恵先生

クリティークの基礎について外部講師の渡邊先生の講義がありました。渡邊先生は、20余の研究に取り組まれた実績があり、具体的な内容でとても興味深いものでした。

クリティークの意味は『批判・評論・論評』であり、先行研究を疑いながら読み、良い点、悪い点などを指摘して価値を決めることです。またクリティークの役割は先行研究の間違いを探すことではなく、「適切と不適切」・「長所と短所」を客観的に指摘することであるということを学びました。

今回の研修を受け、研究はやりがいのあるものかもと思った、先行研究を読みこなすことの大切さに気づいたという意見も聞かれました。現在看護研究に取り組んでいる方も、これから研究を行う方も先行研究をクリティークすることから実践してみたらいいのではないかでしょうか。(和田)

JUMP 実習指導案作成の基礎知識 6/24(木) 講師:田口主任

実習指導案を作成し、効果的な実習指導ができるこことをねらいとし、今回は「実習指導案作成の基礎知識」についての講義でした。臨床指導者の2名をのぞき、他のメンバーも普段病棟で学生指導にあたっているのですが、各学校の実習指導要綱に目を通したことがないとの意見がほとんどでした。実際の指導案を提示し、学生指導案作成展開について教材観、学生観、指導観とは何か、資料をもとに理解を深めていました。初めて聴く三観、指導案作成に戸惑いがみられましたが、講師へ質問したり、グループ内で意見交換したりと積極性に取り組んでいました。(切通)

院内S-QUE研修1000' Eナース コメント

4/21放送

「心電図の基本を極める!」

なぜ、モニタリングを行う際にはII誘導で行うのか、各不整脈の特徴や心電図モニターシールのノイズの入りにくい装着方法などを学ぶことができました。

病棟でも術後の患者等にモニター使用しますが、体動で筋電図が入り、ノイズが混じってしまうため、今回学んだことを装着の際には注意していきたいと思いました。(赤瀬川)

5/6放送

「院内急変を予測できるフィジカルアセスメント」

急変はいつ遭遇するかわからないものです。医療の現場にいる私たちは、常日頃からそのようなことに遭遇することを想定して、知識を身につけていなければならないと思います。

この講義では、急変時の観察のポイントを細かく、分かりやすく説明してあり、とても理解しやすかったです。実際に急変に当たったときにこれを思い出し冷静に対応できるよう頑張りたいです。(田口)

5/19 放送

「急変対応(救急看護技術と蘇生方法)について」

入院して治療中の患者もいつ急変するか分かりません。この放送は窒息、鎮静剤使用後の呼吸抑制、開腹術後のショック、転倒後の急性硬膜下血腫などさまざまな急変時の対応や気道確保の方法、良質な心臓マッサージについての説明、心肺停止に至る前に看護師としてどう対応すればよいか等、実技を見ながらわかりやすく解説しています。いつものように訪室したとき、さっきとは急変した患者の様子に慌てることなく対応するため、新人からベテランナースまでとても参考になる内容だと思います。(宮内)

6/2放送

「正しい酸素療法を知ろう(基礎)」

看護師が、身近な治療としてかかわることの多い酸素療法。酸素療法に対する知識の習得・再確認に必要な項目が学習できました。また、さまざまな高純度投与酸素マスク・低純度酸素投与マスクなど次々に出てくるなかで、混乱していることもあると思いますが、今回の講義を見ることで整理できるのでないでしょうか。(平)

私の自慢

外来: 笹田美穂子さん



皆さんははじめまして(*^_^*)化学療法室にあります、看護師の
笹田美穂子です。

私の故郷をご紹介したいと思います。故郷は長崎県諫早市！川内から新幹線と白いかもめで約4時間！長崎市から車で約15分、『ゼリーのたらみ』『ちゃんぽんのリンガーハット』『カステラの福砂屋』(どれか後存知ですか？)等々の本社や工場がたくさんあります。

長崎はおもしろい有名人が多いのですが、皆さん知るところでは、さだまさし・役所広司(=ダイワハウチュ)…しかし今の旬はよか男・福山雅治でしょう！！大河ドラマ見てくださいね！亀山社中や唐寺・長崎くんち・ランタンフェスティバル等々、見所がありますよ！鹿児島とはまた違う空気に触れてみませんか？みんな来んね～長崎よかこばい！

マイブーム



3階西病棟：園田佑樹さん

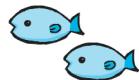
マイブームは釣りです。はじめたきっかけは、暇だなあって思っていたときにたまたま友達が釣りを始めたのです。なんとなくで、たいした理由はありません。というわけで陸を離れて海へ出ました。はじめのうちは何も釣れませんでした。釣りの知識なんて一つもなく、「あー海サイコー！きれいだー！」と、ただただ、体全体で自然を感じ、自然の偉しさに感動していました。でもそれだけでは釣れないで、仕掛けとか時期によって釣れる魚とか時間帯などを勉強し、どれも小さかったですが、アジ、クロ、サゴシ、タイ、イカ、太刀魚などが釣れました。そしてこれがまた止まらなくて、土曜の朝4時に釣具屋に集合し、夜まで釣りしていました。まだまだ知識・技術不足で全く釣れない日もあります。「何でもいいから釣ってくれ」と祈りながら半分くらいは運任せです。今の自分にとって釣りは“ギャンブル”的なものです。それなのに朝から晩まで釣りをしているなんて、周りの人から見れば時間の無駄のように思われるかもしれません。友達と調子に乗って佐多岬まで「いざ、夢の最南端へ」のようなテンションで行ってみたものの、何も釣れず、終いには大雨の中、びしょ濡れで帰ったこともあります。でもそのくらいハマるのです。釣れたときがたまらなく感動です。釣りやっている人にはこの気持ち分かると思います。川内では釣り経験がまだないので、釣り好きの方はぜひ一緒に行きましょう。



基準・手順検討部会の取り組み

平成22年度目標 「看護基準・手順の充実と浸透を図り 標準の看護ケアを提供できる」

看護基準・手順検討部会では現在、昨年度完成した53種類の看護ケア手順をどうしたらスタッフ間に浸透させ、標準の看護技術を患者さんへ提供できるかを考えながら活動中です。各部署では、浸透方法を具体的に年間計画に掲げ、統一した看護ケア技術に向けてがんばっています。また、同時に進行で看護技術手順の年内完成を目指し、コツコツと委員全員が毎月部会で担当分を持ち寄り見直しに奮闘しています。マニュアル作りは地味な作業であり、途中でやめたくなることもあります。しかし完成したものを当たり前のように使用してもらえばやりがいもあると思います。そして基本の看護が統一され、それ以下の看護を誰も行わなくなり、格差のない看護を提供できたらと思います。時間がかかるかもしれません、質の高い看護に近づけるようがんばっていきますので、皆さんもご協力よろしくお願いします。(中屋)



編集後記

看護部だより“ひまわり”の誕生から早いもので1年を迎えました。皆さんの協力のおかげでほぼ予定通り発行できました。感謝いたします (*^_^*)。この“ひまわり”は、各部署に1部届けるほか、ホームページにも掲載し、産休・育休中の方々へは“医療安全だより”等と共に自宅へ郵送しています。復帰後、「2ヶ月毎の便りのおかげで、院内の様子がわかつたり、手順変更などの情報が得られたり、とても頼りになった」「休んでいても看護部に所属しているんだと嬉しかった」などの声が聞かれています。これからも、皆さんにとって身近で役立つ情報を届けできるよう頑張ります！